

形を変えて動く「宇宙生物」のような宇宙機を目指して



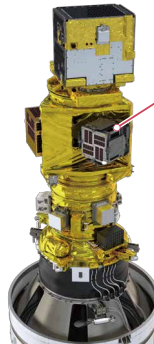
超小型衛星による可変形状機能を用いた姿勢制御の軌道上実証

可変形状姿勢制御実証衛星ひばり HIBARI

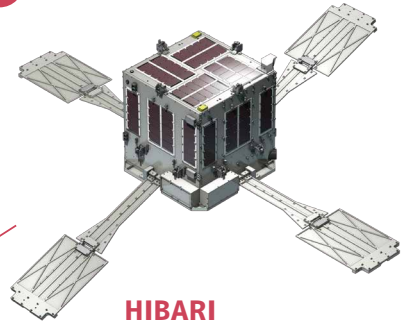
東京工業大学

超小型衛星

衛星の一部分の形を変化させ、その反動で衛星の姿勢を変える技術を宇宙空間で実験します。この技術が確立できれば、衛星のセンサを向きたい方向に素早く向けるなど、効率的に衛星の姿勢を制御することが可能になります。今後は、トランスフォーマーのように形状変化して姿勢や位置を精密に制御できる宇宙機を開発しようと考えています。



搭載



HIBARI
可変形状姿勢制御実証衛星ひばり

インタビュー



衛星の形状変化により高速かつ効率的な姿勢変更を実現する

東京工業大学
工学院 機械系 松永 三郎 教授



2つのカメラで新たな価値ある情報を得る

超小型衛星による複数波長帯での革新的赤外線画像処理技術の実証

複数波長赤外線観測超小型衛星 Z-Sat

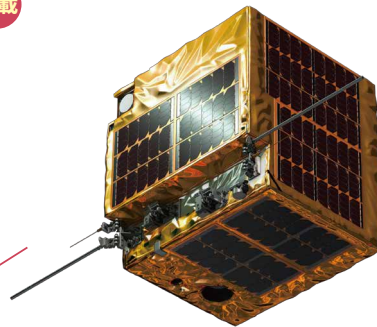
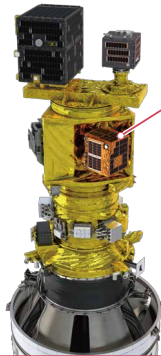


三菱重工業株式会社

超小型衛星

「Z-Sat」は、遠赤外線カメラと近赤外線カメラという異なる2つのカメラを有しています。2つのカメラで地球の表面を同時に観測することで、一つのカメラでは得られない詳細な地表の温度などが分かります。この技術を使って、交通や海運といった地上の経済活動を把握するサービスの提供を目指します。

搭載



Z-Sat
複数波長赤外線観測超小型衛星

インタビュー



超小型衛星の複数波長帯での赤外線画像処理技術を実証し、新たな価値を持つ情報を生み出す

三菱重工業株式会社
防衛・宇宙セグメント 宇宙事業部 技術部
システム制御設計課 衛星チーム
沼田 俊彦 上席主任
成澤 泰貴 主席技師

